

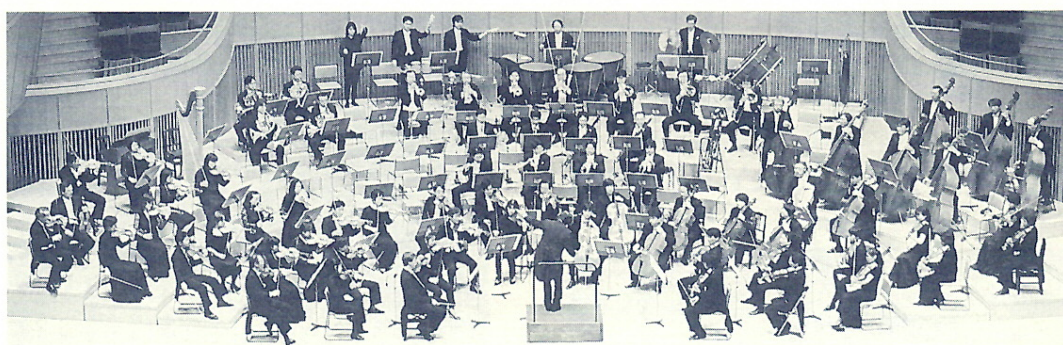
第12号

札幌くらぶ

発行／札幌くらぶ
 (財)札幌交響楽団内
 札幌市中央区中島公園1番15号
 (札幌コンサートホール内)
 電話 011-520-1771
 F A X 011-520-1772

第2回札幌くらぶコンサート開催!!

尾高さんの指揮とお話で



昨年に続き、2回目の「札幌くらぶコンサート」が、4月15日札幌コンサートホール・キタラの大ホールで開催されました。

今回は、会員の皆さんからの希望が多かった「ぜひ尾高さんで」という声をうけ、札幌ミュージックアドバイザー・常任指揮者の尾高忠明さんを指揮者に迎えました。コンサートは、尾高さんの軽妙なお話ではのぼりとした雰囲気で行進されました。

プログラムも、尾高さんが決定されたもので、会員の皆さんの希望が最も多かったラヴェルの「ボレロ」をメインに、多くの人々に親しまれている8曲が演奏されました。第1部ではベルリオーズ、外山雄三、マスカーニ、チャイコフスキーの曲が、第2部ではシベリウス、ブラームス、ドヴォルザーク、

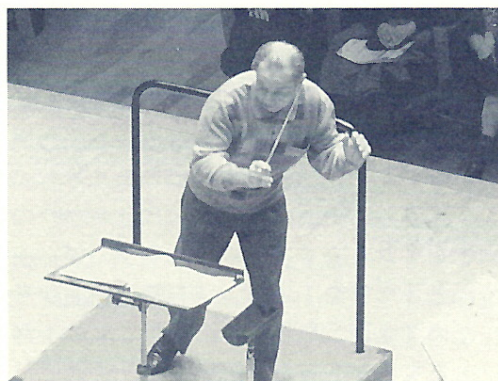


そしてラヴェルの曲が演奏されました。

前回も好評だった「指揮者コーナー」は「指揮者にチャレンジ」と名を変え、「ハンガリー舞曲第1番」で行われました。小学生の女の子を含め、3人の方が挑戦され、満場の拍手をうけました。演奏している楽員の方々もいかにも楽しそうで、「プレイヤーがステージで笑っているを初めて見た」ともらす聴衆もいました。

多くの方が期待された尾高さんのトークもさわやかで、ユーモアたっぷりの話術に皆さん魅了されたようでした。

コンサート終了後、楽員との交流会がもたれ、昨年を上回る約100人の参加があり、会場いっぱいに話の花が咲きました。交流会に参加された方も、されなかった方も満足された1日だったと思います。



指揮者にきく

第2回「札幌くらすコンサート」前日の4月14日、練習の合間に、尾高さんにうかがいました。

札幌
ミュージック
アドヴァイザー
・常任指揮者

おたかただあき
尾高忠明さん

札幌を世界の舞台に
飛躍させたい!!



尾高忠明さんのプロフィール

1947年東京生まれ。父は「尾高賞」に名を残す高名な作曲家・指揮者、兄はその「尾高賞」を受賞した高名な作曲家という音楽一家。桐朋学園大学で故斎藤秀雄氏に指揮法を師事し、在学中にN響の指揮研究員となる。卒業後、第2回民音指揮者コンクールで第2位に入賞。オーストリア政府から奨学金を得てウィーン国立アカデミーに留学。帰国後、東京フィルの常任指揮者、札幌の正指揮者、読売日響の常任指揮者を歴任し、東京フィルの桂冠指揮者。95年には紀尾井シンフォニエッタ東京の初代ミュージックアドヴァイザー・首席指揮者に就任、98年からは我が札幌のミュージックアドヴァイザー・常任指揮者も務めている。91年度サントリー音楽賞を受賞。

海外では、BBCウェールズ響の首席指揮者、桂冠指揮者として同響を世界レベルのオーケストラに育て、バーミンガム市響を育てたサイモン・ラトルと並び世界中から高い評価を受け、エリザベス女王より最優秀英帝国勲章を授与された。現在も英国はもちろん、ヨーロッパを中心に世界各国で活躍中。

—— 尾高さんには97年の9月、本誌4号でインタビューさせていただきましたので、2回目のご登場ということになりますが、現在も仕事の比重は海外が大きいのですか。

尾高 当時は6対4ぐらいの比率で海外での活動のほうが多かったのですが、今は5対5ぐらいになっています。2～3年後には6対4ぐらいの割合で日本での仕事を多くする方向で調整しています。

私も50歳を越しまして、音楽的にもそうですが、人間として母国に滞在する時間が多いほうがナチュラルだと思うようになってきました。

—— 外国はやはり英国が多いのですね。

尾高 そうですね、この間英国のほとんどのオーケストラは振っておりますので、どうしても英国が多くなりますが、昨年などはフランス、オランダとかドイツなどでの演奏もおかげさまで好評でして、今年もフランス、オランダでの公演が決まっていますので、これからは欧州での活動が多くなります。

—— 尾高ファンとしては、日本での活動に重点をおいてほしいとの思いと、他方で世界で活躍されているのをお聞きすることもまた嬉しいという複雑な思いなのですが。

尾高 私の性格なのか、ひとつのオケと仲良く長く付き合っていきたいという考えで、もちろんいいオケを振るのはうれしいのですが、そうしたチャンスをつかむために人をかき分け蹴落としていくというような生き方は好みません。そういうことで東フィルを16年、読響の常任を6年、BBCウェールズも14年になりますがいまだにいい関係が続いています。札幌も然りです。ですから私はとても幸せな気持ちでいることができます。結局音楽をすることは人間性の問題であり、人間性を変えてまで音楽はしたくないというのが私の生き方です。

—— 札幌常任指揮者に就かれて2年になりますが、この間の札幌の演奏について感想をお聞かせください。

尾高 札幌のこの間の演奏に、私はかなりの満足しております。オーケストラのプレーヤーにとってこの1年はとても難しい曲が多かったのですが、取り組みの姿勢は私の予測を超えるものがあったと思います。この3月のル

トスワフスキなどもしっかりものにしましたし、ペルトは普通とても演奏しにくい曲なのですが、私はこの曲を欧州でとても評価の高いロッテルダムでも振りましたが、札幌の演奏はこれと双璧をなすものであったと思っています。1月のニューイヤークンサートの「新世界」もこれまでのものとは相当レベルを異にしたのではないかと思います、いまはとても幸せな気持ちでおります。

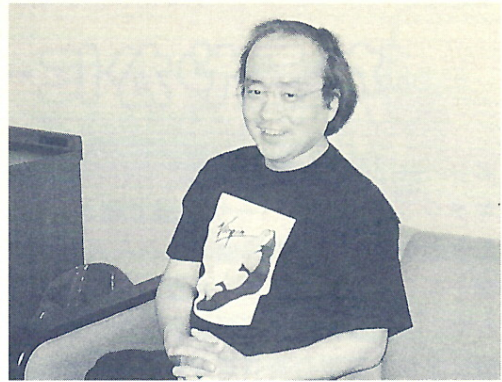
—— 20世紀同時代セレクションシリーズも、当初は戸惑いもあったようですが、最近はなかなかよいものだなあという感想に変わってきたように思います。

尾高 それはとても嬉しいことです。オーケストラが古典と新しい音楽とをどのようなバランスでプログラムするかは、音楽文化を創って行く上で大変重要な問題です。ただ古典といっても、多くは日本が鎖国をしていた江戸時代のもので、それほど古い音楽というわけではないので、その連続線上にある20世紀の音楽として楽しんでいただければと思います。明日演奏するモーリス・ラヴェルのボレロにしても、私の父がラヴェルの自作自演を聴いていたり、ウィーンでは自分の曾祖父がシューベルトと仲が良かったなんて話を聞けるくらいの時代感覚なんです。聴いたことのない曲で、楽員も聴衆も戸惑いがあったかと思いますが、この100年の音楽も後世に残るものがきっとある筈だと思うのです。3月の定期に我々が助成を受けているアフィニス財団の委員の方が聴きにこられ、信じられないほどの名演であったと札幌を高く評価してくれました。

—— 楽員の方々が演奏を楽しんでいるという雰囲気は聴衆は期待していると思うのですが、私は札幌の楽員は皆さん北海道民の良き音楽の先生であってほしいと思っていますので、



第2回札幌くらぶコンサートでの尾高さん



教師が楽しい授業を求められているように、楽員の皆さん方にも工夫が必要なのでは。

尾高 日本のオーケストラの課題のひとつだと思います。奏者が楽しんでいなければ聴衆が楽しむことができるわけがないですからね。伝統的にオケは無表情ということになっておりますが、音ばかりではなく顔の表情も豊かにしてゆく努力をしなければならないと思います。明日のボレロは楽員も精一杯楽しみますから…。

—— これからの札幌の企画についてお聞かせください。

尾高 英国のシャンドスというレコード会社が日本人の曲を札幌で録音し、世界レーベルで発売することとなり、日本のオーケストラとしても画期的な活動ということになります。

また、来年英国で「Japan Festival 2001」という催しがあって、これにオーケストラとしては唯一札幌が招聘され、英国全土で公演をすることが予定されています。札幌の海外公演経験はもう相当昔のことですので、向こうの聴衆の前で演奏することで、また自信をつけてもらえるでしょうし、札幌が少し変わってくると思います。

その時に向け、私がしたいのは、札幌くらぶの会員の皆さんや、定期会員の方々が英国での札幌の演奏を聴きにおいでになりませんかという提案です。英国の演奏会場で札幌を聴くという企画、札幌の魅力をまた再発見できますよ。

—— 私は、既にそのツアーに参加するための積立を開始した札幌くらぶの会員を知っておりますが、是非くらぶで呼びかけをしたいと思います。明日の「第2回札幌くらぶコンサート」を楽しみにしております。今日はありがとうございました。

(インタビュアー 上田 文雄)

なごやかに……恒例の交流会

演奏会の終了後、札幌楽団員とくらぶ会員の交流会をキタラ3階の大リハーサル室で開き、100人を超える参加がありました。盛り上がったコンサートの余韻を楽しみながら、ビールなど片手に会話が弾みました。

冒頭、上田文雄実行委員長があいさつ。指揮の尾高忠明さんは「客席の反応が素晴らしく、とても楽しかった。みなさんも感動されたと信じています。かかわった方すべてに感謝しています。来年、再来年と、続けていければいいですね」と述べられました。

札幌の楽員の方々とくらぶ会員が、演奏会を振り返りながら、親しく話す姿もあちこちで見られました。

札幌の高校生、佐々木あゆみさんが「最後のポレロがとても印象的だった。少しずつ少しずつ盛り上



がっていく感じが、とてもよかった」と感想を話すと、首席コンサート・マスターのグレア・ニキティンさんは「アマチュアの指揮は上手で、しかも個人的でユーモラスでもあった。こんなに楽しかったことはないよ」。首席オーボエ奏者の岩崎弘昌さんも「あたたかい交流、心のふれあいのある演奏会だった。われわれ楽団員の方が楽しませてもらった気がする」と話していました。

交流会場では、あちこちで写真を撮り合う姿も見られ、最後までなごやかな雰囲気にも包まれていました。

今回、参加されなかった方々も、次の機会には、楽員の方々と直接お話しなさってみませんか。

(宮本 武)



札幌物語 XII

有珠山



3月31日に噴火を始め現在も近隣町村をパニックに陥れている有珠山は1977年8月6日にも大爆発をしました。有珠山が位置する虻田町は国道230号線の小さな峠をはさんで、有名な洞爺湖温泉街と虻田町本町に分かれています。この小さな峠で今回の噴火が始まり、国道230号線はずたずたになっています。

23年前の噴火は洞爺湖側で発生したため、洞爺湖温泉は火山灰と噴石に襲われ、泥流が町を通り過ぎて湖岸を20メートル以上も沖に押し出しました。

札幌はあの噴火の2ヵ月後、10月3日に洞爺湖スポーツセンターで演奏会を予定していたのです。噴火が少し収まってから、虻田町へお見舞いと演奏会の検討のため、岡村正吉町長を訪ねました。

助成金付きの演奏会だったのですが、事情が事情なのでスポンサーの理解を頂けると思い、中止の申し出のつもりでしたが、町長は「こんな状況で町民の心が疲弊しているので、私としては何とか実施してほしいのです」と強い希望でした。

町長の言葉に、無理をしても実施しなくてはと会場の洞爺湖スポーツセンターを見に行きました。天井は穴だらけで空が見え、そして災害救助に出動した陸上自衛隊の駐屯所になり、並

べられた装備品の隙間に寝場所を探している状態でした。

町長の強い希望を理解して、助成団体も中止ではなく延期に同意してくれ、翌年2月12日にフランスから指揮者ジェローム・カルタンバックを招いて、ベートーベンの交響曲第6番「田園」を中心に公演しました。まだ道路の両脇には降灰が残り地震も時々ありました。私は万一の時のために客席の一番前で聴いていました。約2時間の演奏会の間に客席で感じられる地震が8回あり、天井の暖房用のダクトがグラグラ揺れる程の地震が3回もありました。

演奏している人たちは少々の揺れには気が付かなかったようですが、ダクトが揺れる程の地震には思わず腰を浮かせかけました。聴衆のリラクセスして中には目をつむって楽しんで聴いている様子を見て腰を落ち着け、演奏会は万雷の拍手を受けて無事終了しました。

10年後、1987年、泥流溝も完成し、泥流が張り出させた湖岸は洞爺湖グリーンベルトという新しい公園に生まれ変わり、完成を祝ってこの公園の舞台でも8月9日にグリーンコンサートを行いました。

今回の噴火が一日も早く終息し、平穏な生活に戻られますよう心からお祈り申し上げます。

(竹津宜男)

オーケストラなんでもQ&A

Q. 曲目によって、様々な打楽器が使われますが、オーケストラで常備している打楽器の種類はどれくらいあるのですか。

A. 打楽器には実に多くの種類がありますが、オーケストラでよく使われる楽器はティンパニー、小太鼓、大太鼓、シンバル、トライアングル、タンバリン、鍵盤楽器（鉄琴や木琴など）で、その他にラテン楽器（マラカス、クラベス、ギロなど）、和楽器（チャンチキ、木魚、太鼓など）があり、札幌の楽器庫（芸術の森にある）にはこれらの楽器を約50種類、数にして約150個を常備しています。珍しいところでは、風の音を出すウィンド・マシーンや自動車のクラクションの音を出すタクシーホーンなども所有しています。

Q. 打楽器奏者の方は、様々な楽器を演奏されますが、打楽器であればどんな楽器でも演奏できるのですか。

A. オーケストラの打楽器奏者はすべての打楽器を演奏できます。但し、オーケストラの中では仕事ガスムーズに行くように各奏者の役割分担がほぼ決まっています。また、札幌が今季の定期演奏会で演奏している「20世紀音楽一同時代セレクション」に見られるようなマルチパーカッションの場合は、一人で幾つもの楽器を演奏します。

PLAYER'S TALK

札幌交響楽団 フルート奏者

まつばら いくひさ
松原 悠久 さん

フルートを始めたきっかけは何ですか

小学生時代にNHKラジオドラマの「笛吹童子」の横笛にあこがれていて、高校（釧路江南高校）の部活での楽器紹介の時、フルートの音をきいて、コレダ！と思いました。それからフルートとのつき合いが始まったんです。

札幌に入ったいきさつを教えてください

大学3年のとき、札幌に入団したくて、オーディションを受けましたが、大学を卒業してからといわれました。その翌年2月、至急エキストラにと呼ばれ、第28回定期演奏会に出演しました。そのまま現在に至っております。

札幌で印象に残っていることは

私が入団した年、あこがれのフルーティスト、ジャン・ピエール・ランパルさんが来札、札幌と共演しました。当時の練習場、中島児童会館で、生の音を聴き大感激しました。

趣味はありますか

健康のためにと始めたウォーキングが趣味になりました。冬は歩くスキーで石狩川の河川敷を歩きます。四季の変化を楽しんでいます。

オートバイで、ツーリングも楽しいです。

札幌くらぶコンサートの感想を

盛り上がりましたね。とくに指揮者コーナーが。演奏し慣れた曲でも、アマチュアの方が指揮をするとう雰囲気違って、とても楽しかったです。

12月で定年と聞きました

早く解放されたい、でも、やめたらどんな暮らしになるのか不安です。

健康のために、ずっとフルートを吹いていようと思っっています。



札幌交響楽団 ヴァイオリン奏者

いしづき はるな
石突 美奈 さん

ヴァイオリンを始めたきっかけは

1歳の誕生日に、16分の1サイズのヴァイオリンを両親が買ってくれ、おもちゃがわりにしていました。3歳のとき、NHKの「ヴァイオリンのおけいこ」を見て、先生についてないから弾けない、みたいなことを言って、習い始めたんです。ちょっと、生意気だったのかな。小さいころは、練習はそれほど好きではなかったけど、発表会など人前で弾くのは好きでした。

札幌に入ったいきさつは

好きなことも、仕事にするととなると大変だと考えましたが、いつもまわりに音楽があるというのは、とても幸せだと思い、卒業間近にオーディションを受けました。私自身は、東京や横浜などで育ちましたので札幌の演奏は聴いたことがありませんでしたが、習っていた先生が、指揮者として札幌にいらしたときに、「札幌はいいオーケストラだよ」とよくおっしゃっていたので、印象が良かったのです。それと、小さいころから犬を飼うのが夢で、札幌でならかなうかなあと思ったのと、両親もその前の年から、転勤で札幌に住んでいたことも影響しました。

北海道での暮らしはどうか

両親の実家が札幌なので、小さいころからたまに遊びには来ていました。いつも雪がうれしくて、大



喜びしていましたが、実際に住んでみると大変ですね。冬は冬眠状態でほとんど家にいます。でも、う

ちの犬、まめ吉くんが、雪の上を喜んで走っているのを見ると、雪もいいかなと思ったりしますが…。食べ物はおいしいです。メロンは苦手ですが、稚内のウニに大変感激しました。天塩のシジミも最高。健康診断が心配な毎日です。札幌は練習場やホールなど環境が素晴らしいですね。

多趣味と聞いていますが

最近、中国茶にはまってるんです。種類もいろいろあるし、リラックスできるし。おいしい淹れ方を含め、目下、勉強中です。髪染めも好きで、赤、緑ときて、最近はグレー系にしています。

ヴァイオリンを弾かなかったら どんな仕事についていたと思いますか

やっぱり、犬の訓練士とかトリマーとか、犬にかかわる仕事かな。

札幌くらぶコンサートはどうでした

指揮者コーナー、よかったですね。あと、交流会も、生の声や反応が聞けました。演奏会の帰りに、いい気分で家路についていただけるよう、私たちもがんばりますので、これからも応援してください。

(インタビュアー

長屋 純子・鎌田 清美・宮本 武)

from 「札幌くらぶ」

札幌の応援団「札幌くらぶ」ができて4年目を迎えました。多くの熱心なファンの方々のご支援のもと、いろいろな行事を行ってまいりました。わが愛する「札幌」も来年、創立40周年を迎えることになり、英国公演など記念事業がいくつか計画されているようです。

私たちの「札幌くらぶ」は、舞台の上の演奏者と客席の聴衆との「心の和と輪」を広げることが第1の目的にしてつくられました。またコンサートホールも札幌の活動の場としてつくられました。でもいろいろな問題があってなかなか思うようには進みません。

「札幌くらぶ」の会員はようやく400人になりました。札幌の定期会員も1200人と足踏み状態です。札幌の経営も厳しい状態です。創立40周年を機に、このような状況についても一度考

えてみる必要があるのではないのでしょうか。

なるほど英国公演も大切ですし、ぜひ成功させてほしいと思いますが、他にも様々なやり方があるはずで、例えば、私たちが誇りとするわが「コンサートホール」に世界一級の幾人かの指揮者を招いて、地元のファンと一体になって札幌の超熱演を堪能する「40周年記念札幌大フェスティバル」というようなことが実現できれば、これも胸はずむすばらしいことではありませんか。

本年度の「札幌くらぶ」総会では、ぜひみなさまのご意見をお聞かせ下さい。

(総会は6月10日17:00より、コンサートホール2階の大会議室で行います。)

(山科俊郎)

札幌がチャリティーコンサート

～有珠山噴火被災者を支援～

札幌交響楽団が、有珠山噴火による被災者を支援するため、6月18日（日）午後2時から札幌コンサートホール・キタラでチャリティーコンサートを開催することになりました。

札幌はこれまでも、第2回「札幌くらぶコンサート」や4月の定期演奏会でミニコンサートによる募金活動を行なってきました。

今回は、札幌とキタラが主催して支援コンサートを行ない、その収益金を全額義援金として被災地に寄付することになりました。

コンサートは札幌正指揮者円光寺雅彦さんの指揮で、キタラ専属オルガニストのイブ・ラファルグさんも出演し、ドヴォルザークの交響曲第8番などが演奏されます。

チケットは、大人2000円、小学生以上高校生までは1000円で、札幌事務局、キタラ・チケットセンターや市内各プレイガイドで5月22日から発売されています。（札幌事務局での購入は、現金引き換えのみとなります。電話受付はしません。）

札幌くらぶとしましても、札幌のこのような活動

に対し心から敬意を表し、支援したいと思います。会員の皆様のご協力をお願い申し上げます。

なお、プログラムは次の通りです。

1 部

オルガン独奏（曲目は未定）

ロッシーニ／「ウイリアムテル序曲」よりマーチ

ヨーゼフ・シュトラウス／鍛冶屋のポルカ

ヨハン・シュトラウスII／ピチカートポルカ

ブラームス／ハンガリー舞曲第5番

ヨハン・シュトラウスII／喜歌劇「こうもり」序曲

2 部

ドヴォルザーク／交響曲第8番ト長調

掲載予定でしたFAN NETWORKの原稿は次号以降にさせていただきます。ご了承ください。

FAN NETWORK

第2回札幌くらぶコンサートのアンケートより

私は4月に中3になりました。だからオーケストラなどのことは、良く分かりません。でも、この演奏を聴いて、心がキレイになった感じがしました。いえ、かっこうつけているのではなく、すごく感動しました。個人的には1曲目と4曲目が好きです。ポレロも。ポレロのとき、スネアの方ご苦労様でした。打楽器が好きです。（10代 女性）

札幌の演奏は年々レベルが上がり、本当に上手に

なっています。特に今日の尾高さんの指揮の時は、常任指揮者ということもあって札幌の持っているものを全て引き出している様に思います。最近では本場に弦が良いですね。音にふくらみが出てきました。益々楽しみです。（50代 男性）

素晴らしい演奏でした。酔いしれました。でも、聴衆のマナーの悪さは何とかならないものでしょうか。尾高さんのお話し中に入場するなんて、許せません。（50代 女性）

編集後記

今回は「札幌くらぶコンサート」の特集的な内容となりました。そのため、昨年同様1ヶ月遅れの発行となりました。また、札幌の有珠山噴火被災者支援コンサートのお知らせのため、一部編集を変更させていただきました。

いつものことながら、原稿執筆で無理をお願い

しておりますが、執筆にあたっていただいた方々に感謝申し上げます。

6月10日には、年に一度の定期総会が行われます。会員の皆様には、万難を排してご出席いただけますよう、心から願っております。ご配慮を賜りますように。（佐藤良次）

次号の「札幌くらぶ」は7月発行の予定です。